

島嶼学概論 I レポート

農学研究科 修士1年 楠 聡太

学籍番号 3415810068

今回、2015年7月4日から5日の2日間、「島嶼学概論 I」の講義の一環として、鹿児島県の離島の1つである三島村の硫黄島に宿泊実習を行った。硫黄島は、竹島、黒島の3島から成る三島村に属しており、鹿児島県南端から約40kmに位置している。島の特徴としては、活火山である硫黄岳が存在しており、硫黄岳から発生する亜硫酸ガスや酸性土壌などが挙げられる。また、複数の温泉が湧いていること、鬼界カルデラの存在など他の離島にはない魅力を持つ島だと言える。

多くの離島が抱える問題として、住民の減少、流通の不便、雇用問題などがある。三島村もそれらの問題を抱えており、解決していかなければならない。そこで今回離島を活性化するにはどういった方法があるかを考えてみた。

まず、農業の面、特に農作物から考えてみると、現在、硫黄島の主な特産品として椿、大名竹などが挙げられる。椿は椿油などに加工して販売されているが、島内で加工は行われておらず、また、その加工施設を建設するのも現実的に難しい。また、酸性土壌や亜硫酸ガスといった問題を含め考えてみると、ブルーベリーなど酸性土壌を好む栽培植物ももちろんあるが、新たに栽培できる農作物もかなり限られてしまう。さらに温室ハウスなどが酸性雨の影響により劣化が早くなること、島に多数生息している野生のクジャクによる被害が増加することなども考えられる。これまでに挙げた問題点を考えると、島で農作物を栽培することは困難であるが、しかし私は、農作物を離島で栽培することは非常にメリットもあると考えている。そのメリットとは、硫黄島で農作物をいまよりも多く作ることができ、島内だけでも販売が行えるようになれば、流通面の不安の改善、また新規入村者への新たな仕事として紹介ができる。現状、農業面の拡大というのは難しいことであると思うが、地元で農作物が作れるというのは島の強みにもなると思うので、どうにか進めていっていただきたい。

次に、観光の面についてから考えてみた。今回、島の説明をして下さった大岩根博士から、現在三島村をジオパークとしての認定を目指していることを聞いた。ジオパークと聞いて最初に浮かんだのは霧島、桜島・錦江湾といった鹿児島で認定されている場所であった。硫黄島を実際に見て、また多くの研究資源が島の中にあるという話を聴く中で、私は三島村も十分に自然遺産のある土地であると感じた。しかし、硫黄島から帰ってきて、島嶼学概論 I の講義の中でそれぞれ感想を述べていく時間があつたのだが、その中で観光の面から見たときにこのままでいいのかという意見があつた。確かに、鹿児島県には他にも屋久島や奄美大島、種子島といった多くの離島が存在しており、そのどれもが魅力的な要素を持ち、海外からの観光客も非常に多い。鹿児島県の離島に観光に訪れたい、またどこか離島で生活してみたいといった人達がいた場合に、候補の一番手になることは非常に

困難な事のように思える。しかし、大岩根博士が仰っていたアカデミックな面からのアプローチは、他の離島にはできない優位な点だと考えられる。また、硫黄岳に硫黄を自分達で採取しに行き、その採取した硫黄で線香花火を作るイベントを行ったという話を聞いて、このイベントも硫黄島でしかできない体験だと感じた。また私達も実際に体験したジャンベも、他の地域ではなかなか学ぶことができないものである。こういった三島村でしかできないことを増やしてくことができれば、三島村に足を運ぶ人が増えるのではないかと考えられる。

また、私は鹿児島県出身であるが、恥ずかしながら三島村のことや硫黄島の硫黄岳、鬼界カルデラのことについていままで知らなかった。しかし、私と同じように県内出身であっても三島村の事について知らない人はたくさんいるように思える。三島村が今後活性化していくには、まず県内外に住む人達にもっと三島村の事、またはその現状を知ってもらうことが非常に重要である。そのためにはやはりプロモーション活動など積極的にしていく必要があると考えられる。

今回のこの「島嶼学概論Ⅰ」の宿泊実習を通して、離島を実際に回り、またそこに住む住人の方々からお話を聞くことができた体験は非常に貴重な体験だと感じた。今後三島村のことを世の中にもっと知ってもらい、訪れる人達が増えることを願っている。このような貴重な機会を作ってくださった国際島嶼研究センターの先生方、大岩根博士、硫黄島の住民の皆様には大変感謝しております。本当にありがとうございました。